

鹿児島市長 下鶴隆央 殿

世界平和統一家庭連合（旧統一協会）系の
団体行事（ピースロード）の後援取消しに伴う、今後の要請

日本共産党鹿児島市議団
団長 たてやま清隆
副団長 大園たつや
幹事長 園山えり

去る8月3日、標記の問題について3項目（①本市が、名義後援した経緯を全て明らかにすること。②今回の後援を取り消すと共に、今後は名義後援をしないこと。③靈感商法による被害者救済など反社会的カルト集団から、市民の命と暮らしを守るために地方自治体としての役割を果たすこと）の緊急要請を行なった際、「後援取り消しの手続きをすすめる」との表明がありましたが、その際、下記の8項目についても、明らかにするように要請しました。

- (1) 「ピースロード」の取組みは、以前から始められているが、本市が「名義後援」した年度はいつからか、明らかにすること。
 - (2) 「ピースロードイン鹿児島」実行委員会が、本市に「後援」申請に来た際に、本市に提出した「資料」を明らかにすること。
 - (3) 後援申請の日程及び承諾する通知を出した日程を明らかにすること。
 - (4) 同実行委員会が申請した際の説明内容と、本市が「後援基準」に照らして同実行委員会に確認した内容を明らかにすること。
 - (5) 本市が「名義後援」を行った以外に関与した事例の有無（イベントへのメッセージや出席の有無）を明らかにすること。
 - (6) 同実行委員会が鹿児島で行った行事内容（時期、規模、場所、参加者数）を明らかにすること。
 - (7) 同実行委員会の構成や所在を明らかにすること。
 - (8) 鹿児島での取組み終了後、同実行委員会の本市への事後報告の有無と内容、本市の後援が明記されている資料等を明らかにすること。
- 以上の点について、8月8日、回答が示されましたが、党市議団は、本市が取組むべき課題として、下記の5項目を新たに要請します。

記

- (1) 昨年の「ピースロード in 鹿児島 2021」についても、本市が後援をしていることが明確になりましたので、2021年の分についても「後援取消し」の手続きを行なうこと。
- (2) 総務局だけでなく、他局の行事関係について、旧統一協会が関与する「後援」が行なわれていないのか、総点検を行ない、関与している実態があれば「後援取消し」を行なうこと。
- (3) 本市が後援取消しを行なったことに対して、「ピースロード実行委員会」から公式な見解は表明されていないが、旧統一協会との関係性を明確にするために「ピースロード」は、「1981年、UPF（宇宙平和連合）の故文鮮明総裁が提案した」構想か否か、また同実行委員会に、旧統一協会の役員も参加しているのか、その事実を確認すること。
- (4) 本市が、旧統一協会系の「ピースロード」を「後援」したことは、市当局の旧統一協会問題に対する認識不足に起因しています。被害の実態や旧統一協会の活動の実相を知るために、全国靈感商法対策弁護士連絡会（東京都新宿区1-15-9さわだビル5F・FAX 03-3355-0445）に問合せを行ない、鹿児島県内での実態を把握すること。
- (5) 本市が、後援を取り消したことは新聞等では報じられていますが、「市民のひろば」やホームページ等で、市の公式な見解を公表すること。

以上